

シンポジウム

近代鉄筋コンクリートの保存・再生に向けて－科学・工学的メスを入れる－

高度経済成長期以前に建設された鉄筋コンクリート造建築物のうち現存するものは築50年を超え、もうすぐ100年になろうとするものも現れてきており、歴史的文化財として価値を与えられたものもある。今後、築50年を超え、使用を継続するか解体するかの判断を迫られる鉄筋コンクリート造建築物が急増することは必至であるが、鉄筋コンクリートの耐久性および鉄筋コンクリート造建築物の耐用年数については、僅か100年間の経験しか蓄積されていないのが実情である。このような事情に鑑み、日本建築学会材料施工委員会の傘下に、黎明期から高度経済成長期までの間に建設された築50年超の鉄筋コンクリート造建築物におけるコンクリートと鉄筋の現状についての調査を行うワーキンググループが設置され、これまで数々の調査活動を行ってきた。本シンポジウムは、これらの調査結果について報告するとともに、このような鉄筋コンクリート造建築物に対する調査診断のあり方および維持保全のあり方の展望を示すものである。

主催：材料施工委員会 改修工事運営委員会 調査・診断仕様書作成小委員会

日時：2015年9月29日（火）10:00～16:15

会場：建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）

【プログラム】

司会：今本啓一（東京理科大学）

10:00-10:10 主旨説明 野口貴文（東京大学大学院）

10:10-10:30 RC造の黎明期について 志岐祐一（日東設計事務所）

10:30-11:00 調査報告① 広島旧陸軍被服支廠倉庫 大久保孝昭（広島大学大学院）

11:00-12:30 調査報告② 軍艦島建造物群 濱崎仁（芝浦工業大学）

12:30-13:30 昼休み

司会：清原千鶴（東京理科大学）

13:30-14:00 調査報告③ 同潤会上野下アパート 今本啓一（前掲）

14:00-14:30 調査報告④ 愛知県旧一ノ宮市庁舎 寺西浩司（名城大学）

14:30-14:45 休憩

14:45-15:45 調査報告⑤ 国立競技場 兼松学（東京理科大学）

15:45-16:15 今後の展望 野口貴文（前掲）

定員：120名

参加費：会員 4,000円 会員外 5,000円 学生 2,000円（資料代含む／当日払い）

Web申込み <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=1171> よりお申し込みください。

問合せ：事務局事業グループ 浜田 TEL 03-3456-2051